

## 南郷町立榎原小学校の学力向上の取組

### 1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

#### (1) 学力調査結果からの課題

全国学力調査の結果 <平成17年5月実施>

	国語	社会	算数	理科	計
本校の平均点	76.9	71.2	71.7	62.7	282.5
県の平均点	75.0	72.6	75.7	65.3	288.6

- 算数科の数学的な考え方の到達度が県平均を大きく下回っている。(県60.7、本校47.7)
- 理科は達成率が低く(県61.5、本校35.7)、特に「観察・実験の技能・表現」、「自然事象についての知識・理解」の力が十分に身に付いていない児童が多い。

#### (2) 意識調査結果からの課題

- 学びの基礎力の中では「感じ取る力」(県65.1、本校57.1)、生きる力の中では「社会的実践力」(県55.4、本校46.0)を高めていく必要がある。
- 読書量の個人差が大きく、読書習慣の身に付いていない児童もおり、テレビを見る時間に流されている。(県109.7、本校130.7)

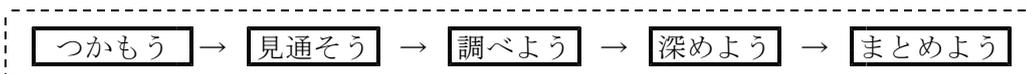
### 2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

#### (1) 学力向上に向けた経営方針

- ① 学習指導の充実による基礎的・基本的な内容の確実な定着
- ② 職員研修(主題研究を中心)による指導技術の向上と学習指導方法の工夫改善
- ③ 読書活動の推進
- ④ 学校と家庭・地域との連携の強化

#### (2) 教育課程内の取組

- ① 職員研修(主題研究が中心)による指導技術の向上と学習指導方法の工夫改善
  - ア 指導方法の工夫改善を図る授業実践を中心とした主題研究の推進
  - イ 問題解決的な学習を取り入れた基本的な学習指導過程による学び方の定着



<児童と教師の目標>

◆児童～学び方を身に付けさせ、自分の考えに自信をもち、進んで発表しようとする児童を育成する。

◆教師～基本的な学習指導過程による授業実践を通して、指導技術を磨く。

#### ○ 国語

- ・ 研究でめざす児童の姿を児童の実態や国語科の目標に照らし、「進んで表現する」という視点から、「感じる・考える児童」「感じたことや考えたことをまとめる児童」「伝える児童」の3点でとらえ、国語はもちろん他の教科でも指導している。
- ・ 文章に即した読解力を身に付けさせるために、「書く活動」を取り入れ、発表の手がかりとなるようにしている。

#### ○ 算数

- ・ 本単元までに身に付けておきたい基礎的・基本的な事項と本単元における基礎的・基本的な事項を明確にし、児童の実態に応じた指導を行っている。

#### ② きめ細かな指導の推進

ア 学力検査結果による個人別得点率の目標設定(国語・算数)と個人ファイルによる管理とそれを生かした指導の工夫

イ 基礎学力の定着を図る校長・特別支援教諭によるTTや個別指導の実施

### (3) 教育課程外の取組

- ① 「習熟の時間」(業間)を活用した漢字・計算の練習と進級テストの実施
  - 進級テストでは、通過率 100%になるまで追試を実施する。
  - 2・3年生の児童を対象に、校長・教頭が業間や休み時間を利用して、「かけ算九九」が 100%暗記できるようにしている。必要に応じて音読も行っている。
- ② 放課後の時間を使った個別指導
  - 国語・算数を中心に、指導が必要とされる児童に対して、放課後の時間(少年団等の活動が始まるまでの時間)を利用して既習内容の定着を目指した指導を行っている。
- ③ 読み聞かせサークルの活動
  - 火曜日の朝の活動時間を利用して、低・中・高学年別に読み聞かせを実施している。
- ④ 全職員によるミニ研修の実施
  - 夏季休業中や冬季休業中の職員朝会を利用し、全教職員が日替わりで行うミニ研修(20分間、テーマは自由)を実施し、幅広い知識と教養を身に付けている。

### (4) 保護者・家庭、地域との連携

- ① 個人面談の実施
  - 夏季休業中を利用して、全学年全家庭を対象に個人面談を実施している。
- ② PTA学力向上対策委員会との連携
  - 学習班(読書活動の推進)と生活班(基本的な生活習慣の育成)とに分かれ、それぞれに教師も加わって取り組んでいる。
- ③ 家庭学習の充実
  - 家庭学習の習慣化を図るために、「家庭学習の手引き」(低・中・高)を作成して、家庭での学習の仕方を指導している。
- ④ 読み聞かせグループ(ぐりとぐら)との連携
  - 月2回(第1・3火曜日の朝の読書時間)に読み聞かせを行い、児童の読書意欲の向上を図っている。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

- 個人票(国・算)の作成によって、児童一人一人の実態把握ときめ細かな指導が可能となり、その学年における基礎的・基本的な学習内容が身に付きつつある。
- 個に応じた習熟学習や進級テストの実施により、児童の基礎学力が高まってきている。
- 「わかる」「できる」授業を目指した主題研究によって、児童には各学年の発達段階に応じた学び方が次第に身に付き、教師には、基本的な学習指導過程が身に付き、指導技術が向上してきている。
- 個人面談の実施によって、児童一人一人に応じた学習の在り方や基本的な生活習慣の在り方について、保護者と具体的な協議ができた。
- 読み声や読書活動、読み聞かせ活動等によって、親子で読書活動に取り組む家庭もみられるようになり、読書への関心が高まるとともに、ノートやプリントに目を通す保護者が増えてきた。

### (2) 課題(今後の取組含む)

- 指導方法の工夫改善
  - 1単位時間の学習の流れ(「つかむ」「見通す」「やってみる」「深める」「まとめる」)を定着させ、学習のねらいにそって児童一人一人が問題解決的な学習を図り、「わかる」「できる」そして「生かす」授業づくりを進めるとともに、表現力を養うために、児童が主体的に発表したり、活動したりする場と時間を確保できるように工夫する。
- 個に応じた指導ときめ細かな指導
  - 個人票をもとに個に応じた指導の充実を図り、指導の結果を具体的に記録し、指導に生かす工夫をする。
- 家庭との連携を図った学力向上の推進
  - PTA学力向上対策委員会を中心に、保護者との連携をさらに密にし、家庭学習の在り方や基本的な生活習慣の定着について保護者の啓発を行う。